

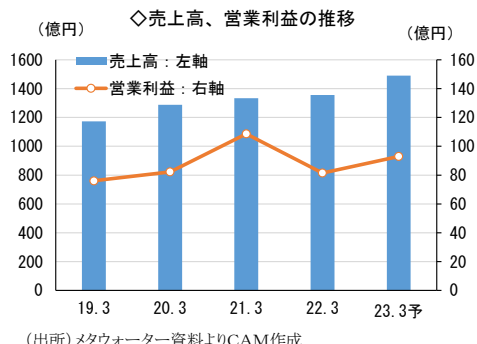
企業ニュース メタウォーター

(東証プライム : 9551) <https://www.metawater.co.jp>

作成者: 奥村義弘

水・環境分野の総合エンジニアリング企業

2008年、日本ガイシと富士電機の各水環境事業子会社の合併により発足。浄水場・下水処理場・ごみ処理施設向け設備などの設計・建設、各種機器類の設計・製造・販売、補修工事、運転管理などの各種サービスを提供する。24.3期を最終年度とする中期経営計画では、設計・調達・建設を行うEPCと、運転・維持管理を行うO&Mを基盤分野、公共サービスの提供に民間が参画する手法のPPPと、海外事業を成長分野と位置付ける。24.3期の目標値は受注高1,500億円、売上高1,450億円、営業利益105億円。22.3期のセグメント別売上高比率はプラントエンジニアリング55%、サービスソリューション45%。



受注は増勢をキープ、低採算案件の減少で増益見込む

22.3期の連結業績は受注高が1,523億円、前期比4%減、売上高が1,356億円、同2%増、営業利益が81億円、同25%減。受注高は、大型案件の減少、複数年度のサービス契約更新による一過性要因がなくなり減少した。一方、EPC、海外子会社は好調で、受注残高は過去最高を更新した。経常利益は前期に計上した退職給付信託株式売却などの一過性要因がなくなり減益だが、粗利や経費の改善、為替差益の増加で、88億円と昨年10月時点の予想74億円を上回った。

23.3期の会社計画は受注高が1,400億円、前期比8%減、売上高が1,490億円、同10%増、営業利益が93億円、同14%増。受注高は大型EPC案件の減少などで前期比減少予想だが、長期的な伸長(3カ年平均)傾向を維持する。売上高は引き続き堅調、低採算案件の減少、連結子会社の好転などで増益を見込む。ナンバーワン製品群の拡販にも力を入れる。上水分野で「高度浄水セラミック膜システム」、下水分野で「初沈代替高速ろ過システム」などを拡販する。成長分野の海外事業では、M&Aにより米国で事業拡大に向けた新たな事業基盤を獲得、欧州で水処理ソリューションの販売力を強化。また4月より宮城県PPPがスタートした。水道、下水道、工業用水道を一体的かつ長期的に管理運営する。収益化に期待したい。

【株価動向・投資判断】

上下水道設備の老朽化を背景に更新需要は大きい。成長ポテンシャルへの関心が高まろう。

<9551 メタウォーター 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
21.3	133,355 (4)	10,863 (32)	11,053 (36)	6,542 (15)	150.5	60.00
22.3	135,557 (2)	8,146 (▲ 25)	8,751 (▲ 21)	6,245 (▲ 5)	143.4	40.00
23.3 予	149,000 (10)	9,300 (14)	9,300 (6)	6,300 (1)	144.6	40.00

(注)20年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施。21.3期の1株配当は分割前第2四半期末40円と分割後期末20円の単純合計



[主要株価指標] (売買単位 : 100株)	
株価 (2022/6/24)	1,978 円
年初来高値 (高値日)	2,182 円 (22/4/28)
同 安値 (安値日)	1,792 円 (22/1/27)
予想 P E R (23.3 予)	13.7 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,360.0 円
P B R	1.45 倍
予想配当利回り	2.02 %
(1株当たり配当金年40.00円)	
R O E (22.3)	11.1 %
発行済み株式数	4,776 万株